

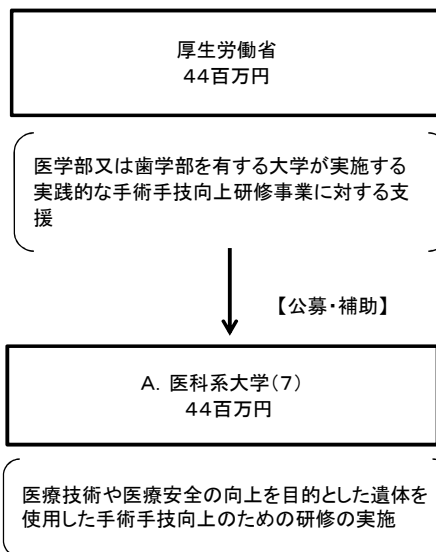
平成27年度行政事業レビューシート

(厚生労働省)

事業名	実践的な手術手技向上研修事業			担当部局	医政局	作成責任者		
事業開始年度	平成24年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	医事課	課長：渡辺 真俊		
会計区分	一般会計			政策・施策名	I-2-2 医療従事者の資質の向上を図ること			
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	「明日の安心と成長のための緊急経済対策」における構造改革特区に係る臨時提案等に対する政府の対応方針(平成22年6月2日構造改革特別区域推進本部)			
主要政策・施策				主要経費	その他の事項経費			
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	医師の医療技術の向上及び国民に対する安全・安心な医療の提供を図るため、医師に死体を利用した実践的な手術手技を習得させるための研修体制を整備する。							
事業概要(5行程度以内。別添可)	現在は一部の大学で限定的に行われているサージカルトレーニングの取組について、「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」を踏まえて、より多くの医師が参加し、その手術手技の向上につなげられるものとするため、他大学や医療機関の医師を含めて受け入れる取組を支援するとともに、トレーニングの効果や運営上の問題点等について整理・検討を行う。 (委託先) 医科系大学							
実施方法	委託・請負							
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	当初予算	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-	
		予備費等	-	-	-	-	-	
		計	54	52	45	46	46	
	執行額	40	52	44				
	執行率(%)	74%	100%	98%				
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 27年度
	実施団体数(目標値「前年度以上」)	実施団体数(目標値「前年度以上」)	成果実績	団体	6	6	7	
			目標値	団体	6	6	6	7
			達成度	%	100%	100%	117%	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込	
	研修参加者数(延べ)(27年度活動見込み「集計中」)	活動実績	人	756	1,106	1,760		
		当初見込み	人	-	800	1,000	-	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込	
	単位当たりコスト=X/Y X:執行額 Y:研修参加者数 (27年度見込みは27年度活動見込みが集計中であるため、未定。)	単位当たりコスト		52.9	47	25	-	
		計算式	/	40,000/756	52,000/1,106	44,000/1,760	-	
平成27・28年度予算内訳(単位:百万円)	費目	27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由				
	衛生関係指導者養成等委託費	46	46					
	計	46	46					

事業所管部局による点検・改善					
項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	近年、医療安全への社会的な関心が高まるとともに医療技術の高度化に伴い、医師の手術手技の向上が求められており、医師の技術向上に資する重要な事業である。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	遺体を活用した実践的な手技を習得する研修体制が整っておらず、国で実施すべき。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	医師の医療技術の向上及び国民に対する安全・安心な医療の提供を図るために重要な事業であり、優先度が高い。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	公募を行い、応募団体から提出された企画書等の評価結果に基づき実施団体を選定している	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	交付要綱において補助対象、補助率等を定めており、負担関係は妥当である。	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	交付要綱に定められた合理的でかつ必要な経費に限られているため、単位当たりのコスト水準は妥当である。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	交付要綱等において、真に必要なものに限定している。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-	
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか		○	交付要綱等において、真に必要なものに限定している。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		○	研修の開催団体は平成26年度実績は平成25年度を上回った。(平成25年度実績:6件、平成27年度実績:7件)	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	医師の医療技術の向上につながる事業であり、実効性の高い手段となっている。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	研修の参加者は当初見込みを大幅に上回った。(平成26年度実績:1,760名、当初見込み:1,000名)	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	実施団体は実績報告の中で事業の検証を行うこととしている。	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)				
	所管府省・部局名	事業番号	事業名		
	-	-	-		
点検・改善結果	点検結果	・平成26年度において、研修の参加者は当初見込みを上回り(平成26年度実績:1,760名、当初見込み:1,000名)、多くの医師が参加し、実践的な手術手技の取り組み推進されたものと思慮する。 ・実践的な手術手技向上研修事業については、死体を利用した実践的な手術手技を習得させるためであり、医師の医療技術の向上及び国民に対する安全・安心な医療の提供を図るために必要な事業であることから、引き続き研修体制の整備に努めたい。			
	改善の方向性	・実践的な手術手技向上研修事業に関する評価会議において、平成24年度の事業実施団体から、公募の時期を早め研修受講者の募集が早くできるよう指摘があったため、平成26年度は公募時期を例年の6月から2ヶ月早めて4月に行うなど、研修事業の改善を行っている。引き続き研修体制の整備に努めるとともに、適正な執行を図っていきたい。			
外部有識者の所見					
点検対象外					
行政事業レビュー推進チームの所見					
現状通り	実施団体数や研修参加者数も増加し、一方で平成26年度予算額で見直しを行い、単位当たりコストも削減されていることから、引き続き、必要な予算額を確保し、適正な執行に努めること。				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
現状通り					
備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	新24-003
平成25年度	56	平成26年度	61		

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

A.国立大学法人東北大学			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
消耗品費	手術器具等	3.7			
借料及び損料	機器賃借料等	2			
人件費	給与費等	1.1			
諸謝金	講師謝金	0.5			
旅費	講師旅費	0.3			
計		7.6	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	国立大学法人東北大学	遺体を使用した手術手技向上のための研修の実施	7.6	-	-
2	国立大学法人愛媛大学	遺体を使用した手術手技向上のための研修の実施	7.6	-	-
3	学校法人産業医科大学	遺体を使用した手術手技向上のための研修の実施	7.6	-	-
4	国立大学法人千葉大学	遺体を使用した手術手技向上のための研修の実施	7.6	-	-
5	北海道公立大学法人札幌医科大学	遺体を使用した手術手技向上のための研修の実施	5	-	-
6	学校法人東京医科大学	遺体を使用した手術手技向上のための研修の実施	4.6	-	-
7	国立大学法人岡山大学	遺体を使用した手術手技向上のための研修の実施	3.7	-	-